

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	418	2年	後期	臨床検査学科	必修	臨床化学Ⅱ Clinical Chemistry II	30	1
担当教員								
高田 智世								
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	○ ⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
臨床化学検査を理解するために必要な単位、精度管理、試薬に対する基礎的な知識および基本的な測定法、検体の取り扱い等を学び、現在、臨床の場で行われている検査項目について説明できるようになる。特に、臨床で重要な検査として糖尿病関連検査、非蛋白窒素・蛋白検査、酵素活性測定法、血中・尿中ホルモン定量法などについて理解する。また、検査に及ぼす薬物の影響等について理解し、病態の把握、診断、予後判定、治療の適否の判断に有用なデータを得る方法について、検査に関わる影響をふまえて説明できる力を身につける。								
到達目標（授業目標）								
1 糖尿病のための検査法（持続皮下グルコース測定法を含む）について説明できる。								
2 血清蛋白の分析法と臨床的意義について説明できる。								
3 非蛋白性窒素化合物の分析法と臨床的意義を説明できる。								
4 酵素活性測定法の特徴について説明できる。								
5 臨床酵素の分析法と臨床的意義を説明できる。								
6 血中ホルモン測定法と臨床的意義や負荷試験について説明できる。								
7 血中薬物測定法とその目的について説明できる。								
8 臨床化学検査に与える薬物の影響について理解する。								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	糖尿病の検査（1）：糖尿病の概説と血糖測定法について講義する。							
2回	糖尿病の検査（2）：糖尿病診断のための検査（糖負荷試験、IRI、C-ペプチド）について講義する。							

3回	糖尿病の検査（3）：糖尿病の管理のための検査（グリコヘモグロビン、フルクトサミン、1-5AG）、（クロマトグラフ法（HPLC）も）、持続皮下グルコース測定法の特徴と意義について講義する。									
4回	糖尿病の検査（4）：糖尿病の治療および糖尿病合併症に関連する検査について講義する。									
5回	血清蛋白検査：総蛋白、アルブミンの定量法、蛋白電気泳動法、膠質反応検査法について講義する。									
6回	非蛋白性窒素の検査（1）：尿素窒素、アンモニア、クレアチニン、クレアチン測定法について講義する。									
7回	非蛋白性窒素の検査（2）：クレアチニンクリアランス、尿酸、ビリルビンについて講義する。									
8回	酵素活性測定法（1）：酵素反応分析法、アルカリホスファターゼ、酸性ホスファターゼ検査法について講義する。									
9回	酵素活性測定法（2）：膵リパーゼ、アミラーゼ、コリンエステラーゼ検査法について講義する。									
10回	酵素活性測定法（3）： $\gamma$ -グルタミルトランスぺプチダーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ検査法について講義する。									
11回	酵素活性測定法（4）：乳酸脱水素酵素、クレアチンキナーゼ検査法について講義する。									
12回	酵素活性測定法（5）：トランスアミナーゼ、アルドラーゼ、アンギオテンシンⅠ変換酵素測定法について講義する。									
13回	血中ホルモン定量法（1）：酵素免疫測定法、下垂体ホルモン、副腎皮質ホルモンについて講義する。									
14回	血中ホルモン定量法（2）：甲状腺ホルモン、副腎髄質ホルモンについて講義する。									
15回	薬物と臨床化学検査：血中薬物濃度測定、薬物の検査に及ぼす影響について講義する。									
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
試験100%。60点以上を合格とする。										
教科書	浦山修ほか「最新臨床検査学講座 臨床化学検査学」（医歯薬出版）									
参考図書等	必要に応じて別途プリント配布や本の紹介をする。									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
生化学や生化学実習の復習をしながら講義を受けてもらおうと理解が進みます。また、復習の際には、臨床病態学で学んだことを関連づけて理解してください。										
関連科目										
前科目	417	臨床化学Ⅰ	401	分析化学	402	生化学	403	生化学実習	156	臨床病態学Ⅰ（共）
後科目	157	臨床病態学Ⅱ（共）	160	臨床病態学Ⅴ						
実務家教員										
臨床検査技師（医療機関）	高田 智世									
備考	臨床検査技師国家試験で出題数が多い分野です。講義で学んだ内容について毎回必ず復習することにより十分に理解してください。									